校長通信

平成３０年度第３号

第１８号　２０１８．６．１１

フランスの大学入試はどんな入試？

【1】はじめに

５月１２日に京都大学で日本教育学会近畿地区の研究発表会がありました。テーマは、「海外の大学入試改革の動向」です。日本も高大接続改革が本格的に始まっていますから、「どんなことが起こっているのだろう？」と思って行ってきました。それと、今、京大は立て看板騒動でマスコミにもよく登場するので、やじ馬根性もあって、「どんなことが騒動になっているのかな？」と思って行ってきました。

研究会の内容は、

1．国際バカロレア入試について
2．フランス大学入試改革について
3．アジア諸国の大学入試動向

という内容でしたが、フランスの報告をされた立命館大学の細尾准教授（右の写真の人）の話がとても面白かったのです。その後、細尾先生と何回かメールでやり取りし、フランスの中等教育（中学と高校）や大学入試について文献を紹介してもらいました。その本もとても面白かったし、読んで思ったことは、

「高校３年生で、こんな入試を受けているのか・・・、日本と全然違うわ・・・」

でした。そこで、これからグローバル社会を生きていき、もしかしたらフランス人と一緒に仕事をする、交渉相手になる可能性が絶対無いとは言えない君たちに、フランス人がどんな大学入試を突破しているか、フランスの大学入試について紹介したいと思います。

【2】フランスバカロレア

今から紹介する内容は、細尾先生に紹介していただいた

バカロレア幸福論―フランスの高校生に学ぶ哲学的思考のレッスン　坂本尚志著　星海社　920円

の内容です。

まずは、基礎的な内容から。フランスの大学入試は、バカロレア試験といわれます。日本でも導入されているところがある国際バカロレアとは、また違う試験です。大学入試といいましたが、厳密に言うと、日本でいう高卒認定試験のようなもので、これに合格すると大学に入学できます。日本の高卒認定試験と違うのは、日本のセンター試験のように、全国一斉で実施されます。

この試験に合格すると、フランスの高校生は、誰でもどこでも好きな大学、好きな学部に入学できます。「ええな・・・」と思うかもしれませんが、アメリカと一緒、卒業するのがとても難しい。落第生が日本の比ではありません。

さらに、エリート養成機関であるグランゼコールという上級学校に進学したい生徒は、やはり選抜試験があるのです。でも、このグランゼコールを卒業すると、会社では最初から新卒で部長級のポストが与えられるとか・・・。すごいですね。日本では東大・京大を卒業してもこうはいきません。

さて、このバカロレア試験。３種類ありますが、大学進学をめざす生徒は、普通バカロレアを受験しますので、この普通バカロレア試験（以下、バカロレア）を紹介します。バカロレアの試験科目は、フランス語（高２で受験）、数学、地理歴史、理科、外国語などがあります。試験は、なんと１週間続きます。それぞれの試験時間は、３時間から４時間。この時間を聞いただけでも、「ゲッ！それ無理！」と思ってしまいますよね。

１日目は哲学。２日目は歴史・地理。３日目は、第１外国語。４日目以降は選択科目ですが、数学や第２外国語は、共通科目です。

バカロレア試験を特徴付けているのが、１日目に行われる「哲学」の試験。これは、あとで詳しく紹介します。試験は、全ての科目で記述です。日本のセンター入試のようなマークカードではありません。選択問題や穴埋め問題もありません。全て論述形式の問題なのです。例えば、地理歴史の問題は、こんな感じ。

「第二次世界大戦以降の、中東と近東における紛争について説明せよ。」

「なんじゃこりゃ？！」ですね。このテーマに年代や事実を織り交ぜて、論文形式で記述をします。答案用紙も白紙の紙を渡されるのです。まさに、「身につけた知識を如何に活用するか」という「思考力・判断力・表現力」をめざす今回の高大接続改革に沿ったような問題です。これからの日本の大学入試も徐々にこんな問題が出題されるかもしれません。

このバカロレアは、１８０８年から開始されました。当時、どうも大学入試試験が知識偏重だと批判があって、このような「考える試験」になったようです。２００年以上の歴史がありますね。やっと日本も「覚えたものを吐き出す入試」から「考える入試」になろうとしていますが、フランスとは２００年以上の差です。

【3】バカロレアの哲学試験

それでは、今回のメインテーマである哲学の試験について紹介しましょう。バカロレアは、理系・文系・経済社会系の３つの種類に分かれているのですが、それぞれのコースに哲学の問題が出題されます。

まず、その驚くべき問題を紹介しましょう。
哲学の問題は、３題が出題され、そのうち１題を選択して、４時間かけて白紙の用紙に論述します。３つのうち、２つは短文による哲学の問題です。残り１題が、１０行から１５行の哲学書の抜粋を読んで、そこでどのような問題や概念が扱われていて、議論がどのような構造になっているかを説明する問題です。
例えば、こんな問題です。

文科系
１．認識するためには観察するだけで十分だろうか？
２．私が行う権利を持っていることすべては正しいのだろうか？
３．ルソー『人間不平等起源論』からの抜粋の説明
経済社会系
１．理性によってすべてを説明することができるのか？
２．芸術作品とは必ず美しいものだろうか？
３．ホッブス『リヴァイアサン』からの抜粋の説明
理科系
１．自分の権利を擁護することは、自分の利益を擁護することだろうか？
２．自分自身の文化から自由になれるだろうか？
３．フーコー『思考集成』からの抜粋の説明

（前掲書　ｐ３２）

「なんじゃこりゃ？！」ですよね。おそらく、日本の高校の先生でもこれは解答するのは難しいでしょうね。日本でも「倫理」という科目がありますが、こんなテストは出ません。私は、共通１次テストの１期生ですが、社会は世界史と倫理社会で受験しました。倫理社会で勉強したのは、各時代の哲学者の主張した内容や著書の内容・概略・特徴です。まさに、知識を習得する勉強です。こんな哲学の課題を論述する勉強はしていません。恐るべし！フランスの高校生です。

ところが、この問題にも解答するコツがあるというのが、坂本氏の意見。これについては、なるほど!と思うところがあり、今後日本で実施されるであろうと思われる「思考力・表現力・判断力」を問う試験や小論文にも活用できるだろうと思いますので、後で述べます。

まずは、「こんな試験問題、誰が採点するの？」という問題。実は、高校の先生が採点するのです。「エ～～！」という声が聞こえてきそうですが、さらにビックリするのは、採点基準なし！先生によって、点数が変わるのです。でもフランスの国民性なのか、それは許容されているとのことです。日本は、とても入試の公正性、公平性が重視されますよね。この研究会で学んだことは、意外にもこれほど公平性・公正性に神経質になるのは、日本の特徴だとわかりました。台湾では、大学の試験に地域枠があるらしいです。つまり、日本で例えると、京都大学の入試に鳥取県出身の高校生だけが受験できる枠があるということ。地域格差の是正ということが趣旨らしいですが、日本では到底考えられないですね。

【4】哲学試験は、こうやって解く！

さて、この日本の高校生にとっては、難解極まりない問題をどのように解答すればよいか？最初に紹介した本の第２章に詳しい内容が載っています。それをダイジェスト版で紹介しましょう。

（1）自由に書くのではなく、「型」を守って書く！

この試験の目的は、生徒の哲学的才能や独創性を育てることを目的としていません。哲学の試験なのに、それでは、何を目的にしている？と思いますよね。目的は、哲学の授業で学んだ「思考の型」を哲学の問題に当てはめて論述できているかというところを見ます。この「思考の型」というのは、何も哲学だけでなく、他の学問や社会生活の中でもかなり役立つと思います。

（2）問題の中心テーマを理解し、細部を観察する！

まずは、「何が問われている問題か」を理解すること。まあ、これはわかりますよね。ところで、「細部を観察する」とは、どういうことでしょう？

坂本氏の例を挙げると、こんな感じになります。（前掲ｐ５６）

例１：他者に導かれることは、自分の自由を放棄することか？

中心テーマは何か。それは、「他者」と「自由」です。しかしそれだけではありません。「導かれる」とはどういうことか？「自由を放棄する」とはどういうことかを哲学的に定義する必要があります。

例２：「人間は自分自身を意識しているか」と「人間は常に自分自身を意識しているか」

前者だと、「自分自身を意識している」と「意識していない」の二つの答えの比較検討になりますが、後者だと「常に意識している」と「常に意識しているとは限らない」という答えの比較検討になり、前者とは違う検討を行わなければなりません。「常に」という副詞があることで、検討する内容が変わるのです。

これが細部を検討するということです。副詞一つで解答の内容が変わります。

（3）一つの問いを複数の問に翻訳する！

バカロレアの哲学試験の問題には、その答えが２択または３択になるものが主流です。例えば、「国家のない社会は可能だろうか？」という問題に対しては、「可能である」と「不可能である」の二つの答えが用意されます。しかし、どちらの答えに対しても、どのように答えていけば良いかなかなか難しいですね。そこで、問題を突き詰めて、「問いを翻訳する」のです。例えば、こんなふうに・・・

「国家のない社会は可能だろうか？」を翻訳すると、

★「国家のない社会」とはどういうものか？
★国家と社会は切り離せるものなのだろうか？
★国家がなくても社会はまとまっていられるのだろうか？なぜまとまっていられるのだろうか？
★「国家のない社会」が可能だとしたら、あるいは不可能だとしたら、それはなぜなのだろうか？
★「国家のない社会」が可能であるためには、どのような条件が必要なのだろうか？そしてそれはどのように存続するのだろうか？（前掲ｐ６６）

この問いを作るには、コツがあるのです。それは、

『何』『なぜ』『どのように』『仮に～ならどうなのか』という疑問を作る言葉を使うこと

です。例えば、この「国家のない社会」の問題を例にとると、

■「国家のない社会」とは『何』かという問い
■「国家のない社会」は『なぜ』可能なのかという根拠の問い
■『どのように』という、可能であるための道筋に関する問い
■『仮に国家のない社会が可能なら、何が起こるか』といった過程に基づく推論の結果についての問い

（4）哲学論文は導入・展開・結論の３部構成！うまく、『権威』を利用し、自分と反対の意見から論証する！

これは、実際の問題の「設計図」を記すことで解説していきましょう。（前掲ｐ８１）

問題：「欲望を恐れるべきだろうか？」

導入

１：欲望とは、ものの決如によって生まれ、それを充足することで自身を消し去ろうとする矛盾した存在である。しかし、それはわれわれの本質である。

２：しかし、エピクロスのような古代の哲学者は、欲望は危険であると考え、欲望を統御すること、あるいは消し去ることを勧めている。

３：いかなる意味で欲望は危険なのか？われわれはどのように欲望の危険に立ち向かうことができるのだろうか？欲望はわれわれの本質なのだから、それを恐れるとは自分を恐れることであり、矛盾していないだろうか？

４：本当に欲望を恐れないといけないだろうか？

欲求の定義

権威の引用

問題の翻訳

本質的テーマ

展開

展開１　欲望を恐れるべきである

（この中身については前掲の本を読んでください。中身の濃さがわかります）

展開２　欲望を恐れるべきでない

（この中身については前掲の本を読んでください。中身の濃さがわかります）

自分と反対意見から論証する

結論

１：欲望はその際限のなさによってわれわれにとっての危険となる。理性と意志こそが欲望を抑える力である。
２：しかし、同時に欲望はわれわれの本質である。欲望を恐れて消し去ろうとすることは、欲望の充足によって生み出される新たな価値や生の在り方を否定することである。
３：もちろん、単に欲望を満足させることが重要なのではなく、まず欲望を理解し、欲望によって新たな価値を作り出していくことは必要である。それによって人間は人間になる。
４：欲望とは危険であるが、われわれの新たな存在を生み出す力でもある。
５：ゆえに、極度に恐れる必要はない
６：では、欲望はいかにしてわれわれの新たな価値の創造を可能にしてくれるのだろうか？

如何でしょう？これが小論文の設計図です。ちなみに、展開1は1～5、展開2は1～6の骨子が書かれています。こんな設計図を仕上げるために、４時間の試験中２時間は、設計図に費やすのが通常のようです。そして、なんと、文系では、週8時間。経済社会系では4時間、理系では3時間の哲学の授業があります。この哲学の授業は、高校３年間で身につけた知識・思考力・表現力・判断力の総仕上げの授業として位置づいているのです。

そうそう！書くのを忘れていました。バカロレアは、１００点満点ではありません。２０点満点です。そして１０点以上が合格。哲学の試験の平均点は7点、他の科目より４点低いということですから、フランスの高校生にとっても、この哲学の試験は、難易度がかなりあるということですね。
ビックリするのは、このバカロレアの試験の結果は、インターネットで公開されます。点数まではわかりませんが、個人の合否についてはアクセスできるらしいです。個人情報保護も国によって考え方が大分違いますね。

以上、フランスの高校生が受験するバカロレア、哲学の試験について紹介しました。とにかく、哲学に関わらず、白紙の答案用紙を渡され、そこにひたすら記述する。マークもなければ、選択肢も穴埋めもない、「ゼロからの積み上げ＝創造」です。そんな力が試される試験がフランスの大学入試ですね。こんな入試を経験し、突破するフランスの若者に言えることは、

「考える力が半端じゃない！」

ということではないでしょうか！「これが国際スタンダードだ！」とまでは言いませんが、こんな力が求められる時代に突入したということですね。日本の若者も早く同じスタートラインに立たなければなりません。
布施の生徒もまずは、新聞を読んで、本を読んで、様々な意見・考えに触れるところから始めましょう！

最後に・・・**これがうわさの京大のたて看板！**（野次馬根性で撮影してきました！）

新聞報道によりますと、翌日の日曜日には撤去されたようですが、月曜日には撤去した看板がまた設置されたようです。